平成27年度第4回京都市青少年活動推進協議会

1 日 時 平成27年9月25日（金）午前10時～正午

2 場 所 職員会館かもがわ

3 出席者（敬称略）

山本 智也（会長）	大阪成蹊大学教育学部教授
安保 千秋（副会長）	公益財団法人京都市ユースサービス協会理事長
雨宮 万里子	京都市少年補導委員会理事
川中 大輔	シチズンシップ共育企画代表
神崎 清一	公益財団法人京都YMCA総主事
佐々木 佳代	同志社女子大学名誉教授
佐野 光平	公募青少年委員
澤井 早和乃	京都市保護司会連絡協議会会長
長者 美里	京都光華中学校・高等学校校長
橋本 太加伸	京都府警察本部少年サポートセンター所長
山本 純	京都市PTA連絡協議会常任理事

4 会議の概要

- (1) 「はばたけ未来へ！京都市ユースアクションプラン」行動計画の見直しについて
- (2) その他

5 会議で出された意見等（要旨）

- (1) 「はばたけ未来へ！京都市ユースアクションプラン」行動計画の見直しについて

① 数値目標の見直し内容の修正案について

- ・ 青少年が参画している審議会等の割合の数値目標設定の考え方は、過去の最高値の1.5割増でなく1.2割増ではないか。
- ・ 青少年活動センターで活躍するボランティアについては、現在参加している人をいかに次の世代につなげるかということが課題であり、広報の方法を考える必要がある。現在、ボランティアに参加している人への十分な情報提供も必要である。
- ・ 青少年が参画している審議会等の割合については、若者の意見を聞く場など、若者が意思決定過程に関わる場を設定したことも参画と捉える考え方もあると思う。
- ・ 数値目標にアウトプットとアウトカムが混在しているのが気になる。揃えていくこと

が必要ではないか。

- ・ 「Ⅰ 生き方デザイン形成支援」の数値目標は、事業の実施が推進につながるため、アウトプットの指標となっており、「Ⅱ 困難を有する青少年がよりよく生きるための支援」の数値目標は、結果を求められているため、アウトカムの指標となっていると考える。

② 市民意見募集について

- ・ 若者にも意見を出してほしいので、若者向けの対応が必要である。
- ・ 意見に対する個別の回答は行わないとリーフレットに書いてあるが、意見が反映されないという懸念が生じないように、意見を取りまとめて検討することがわかるような、前向きな表現にした方がよい。
- ・ 意見を言っても変わらないと思っている若者に参画してもらうために、意見に応じてくれないという疑念を抱かせない工夫が必要である。
- ・ 意見の取扱いについては、市民参加等を担当する部署が全市的に検討してほしい。
- ・ 意見を取りまとめたものを掲載するホームページのURLをリーフレットに書いておいてほしい。

③ 行動計画見直し案の修正等について

- ・ 具体的な取組の「高校生のインターンシップ事業の推進」は、「インターンシップ事業の推進」に含まれるので、統合してほしい。
- ・ 「インフォメーションアウトリーチ」という表現は分かりにくいので、情報を直接伝えるというニュアンスを出して、「積極的な情報提供」としてはどうか。
- ・ 「シティズンシップ教育」の注釈は、「市民」の言葉が京都市民という意味に誤解される可能性があるため、「民主主義の担い手を育む」というニュアンスの方が分かりやすいと思う。
- ・ インターネット・スマートフォンや薬物乱用防止に関する取組の推進については、犯罪被害しか記載しておらず、消費者被害についても記載しておかないと、具体的な取組につながらない。
- ・ 薬物乱用やインターネットの消費者被害に関する対応は、社会環境づくりの推進の範疇に入るものであるが、行動計画の見直しの中に入れることで、若者の直面している課題の再認識になり、啓発につながる。